

平成27年度事務事業評価シート					取組みコード	32121
区分	事務事業	担当課	健康推進課	作成日	平成27年5月13日	
事業名	風しんワクチン接種事業費	開始年度	平成25年度	予算科目	4.1.2.2.4	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第3部 健康でゆとりとふれあいのまちづくり	章	第2章 いきいきと暮らす生涯健康づくりの推進
節	第1節 健康づくりの推進	基本施策	2 母と子の健康づくりの推進
取組みの基本方向		(1)一貫性のある母子保健事業を実施するとともに、関係機関との連携により、母子保健に関する支援体制の充実につとめます。	
根拠法令等	予防接種法		
目 的 (誰・何を対象に、何のために)	子どもの先天性風しん症候群の予防及び風しんの流行拡大防止 (妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などを持った児が生まれる可能性が高くなる。平成25年には14,357名の全国流行となり、神奈川県でも先天性風しん症候群が3人報告される大流行となった。特に20～40代は、風しん抗体保有者が少ないことから、今後も周期的に風しんが流行する可能性がある)		
内容・方法 (何を行っているのか)	①20歳以上の妊娠を予定、希望する女性②妊娠している女性の夫③40歳未満の男性に対し、接種費用の一部助成を実施。一人当たりの助成額については、「麻しん風しんワクチン」は、6,000円、「風しんワクチン」は、4,000円を助成。ただし、生活保護受給世帯及び町民税非課税世帯に属する方は、接種費用を全額助成。接種場所は、一般社団法人厚木医師会加入の実施医療機関にて、個別接種。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名		平成21年度	平成28年度		
		住民の満足度(%)		45.6%	56.0%		
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果			妊娠を予定又は希望する女性 の風しん抗体保有者を増やす				
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成24年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
風しんワクチン接種者数	増	風しん未接種者及び抗体保有者ではない者の風しん接種者数	計画値		351.0	110.0	64.0
			実績値	0.0	168.0	56.0	
			達成度※自動計算		47.9	50.9	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動			先天性風しん症候群についての正しい理解と発症予防のための予防接種の啓発				
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度
先天性風しん症候群についての理解と発症予防のための予防接種の普及啓発	増	普及啓発活動 ・広報誌への掲載 ・ポスターの掲示 ・チラシの配布 ・ホームページ掲載	計画値		2.0	3.0	4.0
			実績値		2.0	3.0	4.0
			達成度※自動計算		100.0	100.0	100.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成24年度)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算見込)	平成27年度(予算)
(A) 事業費(円)		0	2,803,000	326,000	404,000
(B) 概算職員数(人)		0.000	0.100	0.100	0.100
(C) =(B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		0	830,000	830,000	830,000
(D) =(A) +(C) 総事業費(円) ※自動計算		0	3,633,000	1,156,000	1,234,000
単位当たりコスト※自動計算		#DIV/0!	21,625.0	20,642.9	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	441,000	108,000
		地方債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源※自動計算		0	3,192,000	1,048,000
					1,106,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において同類種の事業が実施されていない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である		
	町民の日常生活に必要不可欠な事業である		
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成26年度の目標を達成している	×	C
	基準年度と比較して成果が向上している	×	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減≧成果ダウン	B
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5 特記事項

平成24年度は事業を実施していないことから、有効性、効率性の判定は平成25年度を基準年度とした。成果が低下しているため有効性の判定がCとなっているが、基準年度である平成25年度は風しんの流行により全国で助成制度の実施がスタートした年であり、流行が収束した平成26年度に接種者が減少しているのは止むを得ない面がある。

6 自己評価(担当課)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由	先天性風しん症候群及び風しんの発生数がないことから、本事業を実施している意義がある。					
今後の方向性	今後も事業継続予定。					

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等	有効性の評価がCとなっているが、風しんが流行した平成25年度に比べて流行が収束した平成26年度の接種者数が減少したことに伴うものであり、止むを得ない。所管課の方向性のとおり現状維持とするが、風しんの流行を予防するため、より速やかに接種が進むよう周知啓発等を図る必要がある。					

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	☐ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等						

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

風しんの流行を予防するため、引き続き事業を実施するが、より多くの未接種者の接種が進むよう、制度周知に工夫する。特に、母子健康手帳交付時のチラシ配布や各種乳幼児健診でのアナウンス等を実施する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由・改善方針	所管課の方向性のとおり、周知啓発を進め接種の促進を図りながら事業を継続する。					